

学びの基本は

読む力 書く力 計算する力を養うことである

そして、学んだことを人のために活かす力を養うことである

人として身に付けるべき能力として、「読み、書き、ソロバン」ということが、昔から言われてきました。この3つは、普段、私たちが生活するために必要な基礎的な能力です。今は、「話す」ことも大切な時代となってきています。さらに、学んだことを、自分のためだけではなく、周囲の人のためにも使い、役立たせられることが強く求められています。

せっかく学んだ知識と技能を、社会のために使用せず、人を不幸にすることに使ってしまう間違った考え方を持った人や、自分の欲望を満足させるためだけに使ってしまった人が見受けられることは非常に残念なことです。

私たちは今、複雑な社会の中で、多様な人間関係を持ち、多くのストレスを感じて生きています。また、あまりにも権利主張と自己保守の傾向が強まり、お互いが自由闊達に生きることができなくなっています。私の感覚としては、勝手気ままな考え方、生き方が多くなっているように感じています。

この世の中には、頭の良い人がたくさんいます。しかし、人の評価は「頭の良さ」ではなく、「良い頭、優れた知識・技能」を、世のため人のために、いかに活用できているかではないでしょうか。できるだけ人のためになることをしなければならない、と思いながら、一生懸命に生きることが、社会人としての最低限の義務と責任だと思っています。

人間が社会生活を送る生き物である限り、自分さえ良ければいいという考えは許されません。きちんと大切なことを学んでいるだろうか、自分の学ぶ姿勢はこれでいいだろうか、常に省みて、学んだことを他の人のために活かすことができているかを時々確認しなければなりません。

小さい頃、祖母から「人を傷つけたり、迷惑をかけることは悪いことだ」と良く言われて育ちました。特別に、何かを人のために為そうと思ってできるものではないですが、周りの人たちのことを思いやりながら、しっかり生きていきたいものです。

